

水の文化 京都の

謎



ミツカン水の文化センター



- 米山俊直「盆地都市と水の文化」
- カッパ研究会「カッパが語る京の水」
- 白幡洋三郎「庭園は総合生活空間」
- 樋口忠彦「何を見る」というよりは「どこから見る」
- 浜野 潔「水と町衆が生み出す暮らしの勢い」
- 編集部「第3回世界水フォーラム報告」
- 水の文化楽習実践取材「新聞発行から学ぶこころ言葉」
- 編集部「盆地都市を想像する」
- 松井 恵「夏の京都 水風景」
- 古賀邦雄 水の文化書誌「京都の水」

水の文化
2003
14

水の文化 August 2003 No. **14**



表紙上：京都清水寺の手水所。写真にはないが、鉢の下にはフクロウが彫り込まれている。
 表紙下：清水寺の音羽の滝の水にはどんな力があるのだろうか。いつも口にしてる水と何が違うのだろうか。
 裏表紙上：多目的用水として建設された琵琶湖疏水を象徴する、小型舟を運ぶインクライン。
 その役目は1928年をピークに陸上交通の発達に取って替わられるが、1948年（昭和23）まで続いた。
 裏表紙下：京都駅の空中遊歩道から北を臨む。
 地上では意識されずに目の端に入る町家に挟まれた山緑ではあるが、高所に登るとこの地が盆地であることを再認識させられる。